販 売 用 資 料

2022年1月

インベスコ　世界厳選株式オープン　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

追加型投信／内外／株式

特別レポート

世界のベストのポイント

レポートの概要

本レポートでは、インベスコ　世界厳選株式オープン【愛称：世界のベスト】（以下、当ファンド）のポイント、足元の市場環境や運用状況、組入銘柄や業種ごとの見通しなどについて解説します。

1 **当ファンドの概要**　：銘柄選択手法とファンドの特徴
2 **世界経済と株式市場の状況**　：力強い回復基調が鮮明に
3 **新型コロナウイルス感染状況と各国経済対策**　：経済正常化へ向けた段階的な動きが広がる
4 **金利上昇が株式市場に与える影響**　：当ファンドは金利上昇の恩恵を受けやすい業種構成
5 **当ファンドの運用状況**　：割安株が見直される局面は、当ファンドの追い風に
6 **毎月決算型の分配原資と分配金**　：豊富な分配原資、コロナ禍でも分配金を引き下げず
7 **組入銘柄のご紹介と業種別見通し**　：代表的な組入銘柄とコロナ禍における業種別見通し

1 当ファンドの概要：銘柄選択手法とファンドの特徴

成 長　　配 当　　割 安

株式投資の王道である成長＋配当＋割安を追求して
世界のベストを厳選

毎月決算型　　20年超の実績

毎月決算型*1で20年超の実績をもつ唯一の世界株式ファンド*2

＊1 2018年10月からは、年1回決算型も運用を開始しています。

＊2 出所：Fundmark/DL。2021年11月末現在で、投信協会分類の内外株式カテゴリーにおける毎月決算型のファンド。残高100億円以下のファンドを除く。「世界のベスト」（毎月決算型）は2016年9月に毎月決算型に変更しています。

※P.22の収益分配金に関する留意事項の内容を必ずご確認ください。

当資料では、「インベスコ　世界厳選株式オープン＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）」を「毎月決算型」、「インベスコ　世界厳選株式オープン＜為替ヘッジあり＞（年1回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年1回決算型）」を「年1回決算型」という場合があります。

Invesco

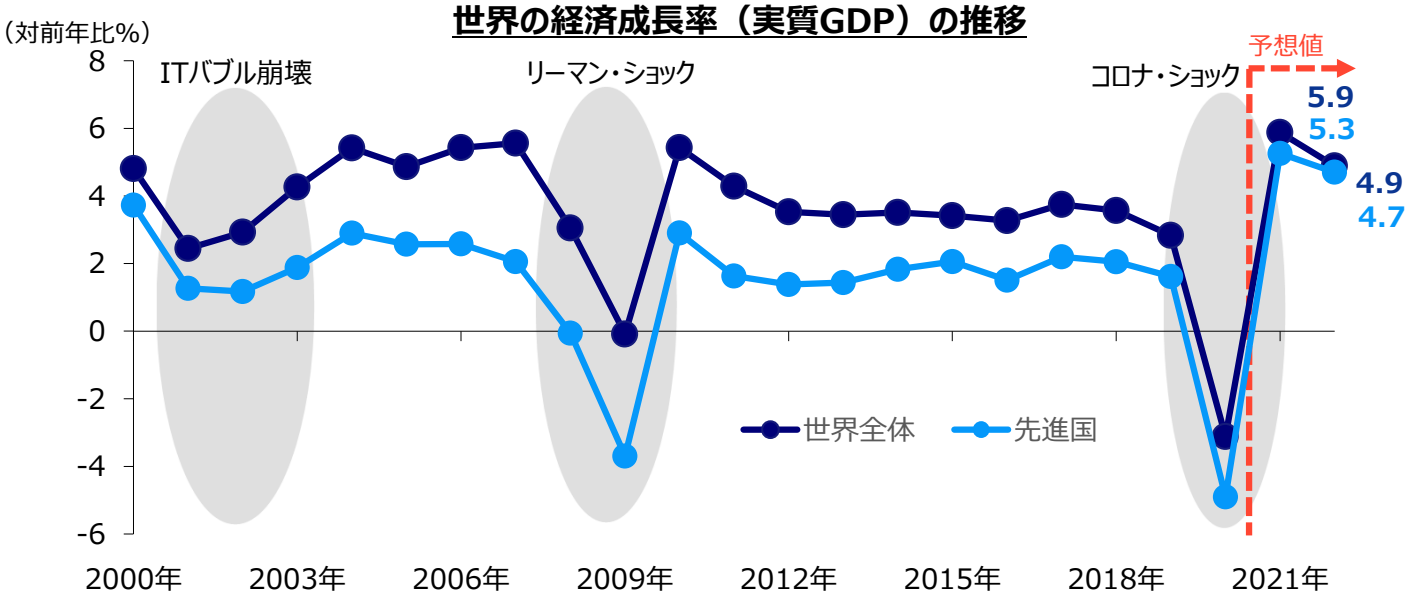
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

② 世界経済と株式市場の状況：力強い回復基調が鮮明に

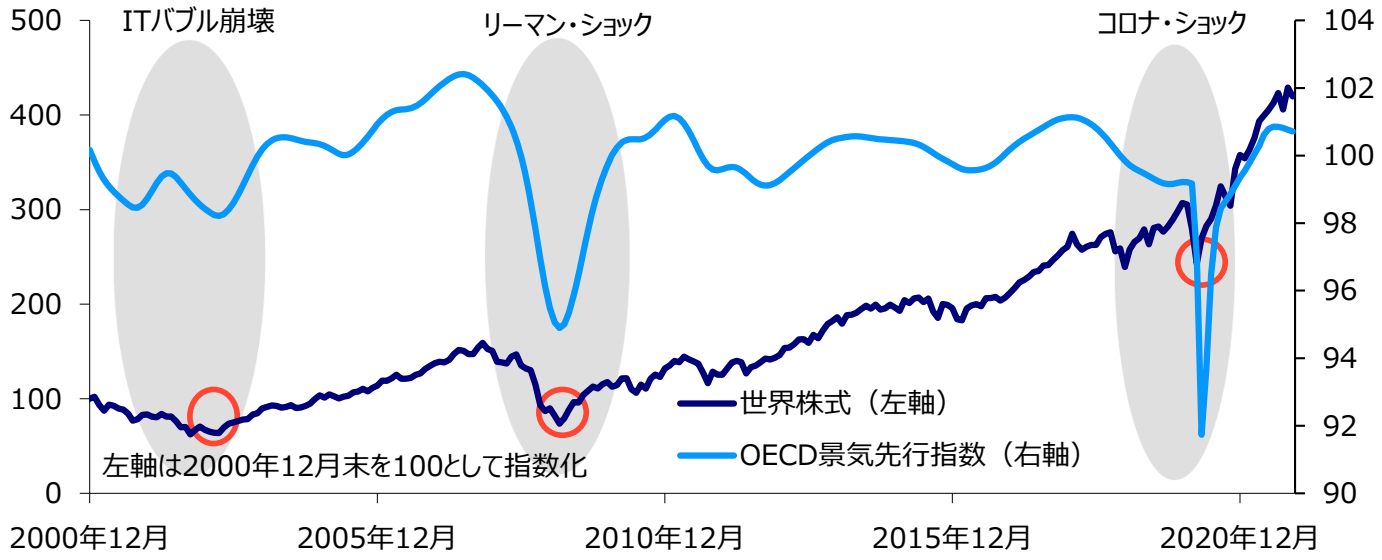
世界経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により2020年に大きく落ち込みましたが、各国・地域における政策対応の効果やワクチン接種の進展などを背景に、回復が続いています。足元、供給制約やインフレ圧力への懸念などを要因に、その勢いは鈍化していますが、米国などで実施される大型経済対策の効果が期待されます。

世界の経済成長率（実質GDP）の推移



過去、景気の谷と株価の底値はおおむね連動する傾向がありました。足元、景気先行指数は2020年4月に底値をつけてから下落前の水準を大きく上回っており、株式市場においても景気や企業業績の先行きへの期待などから、新たな相場展開が始まっていると考えられます。

世界株式と景気先行指数の推移



【上段グラフ】出所：IMF, World Economic Outlook October 2021のデータを基にインベスコ・アセット・マネジメントにて作成。先進国は、Major advanced economies (G7)のデータを使用。期間：2000年～2022年（2021年以降はIMFによる予想値、ただし2020年以前も一部予想を含みます。）
【下段グラフ】出所：ブルームバーグ。世界株式：MSCIワールドインデックス（米ドルベース、トータルリターン）。期間：2000年12月末～2021年11月末、月次
上記は過去のデータおよび予想値であり、将来の成果などをお約束するものではありません。

Invesco

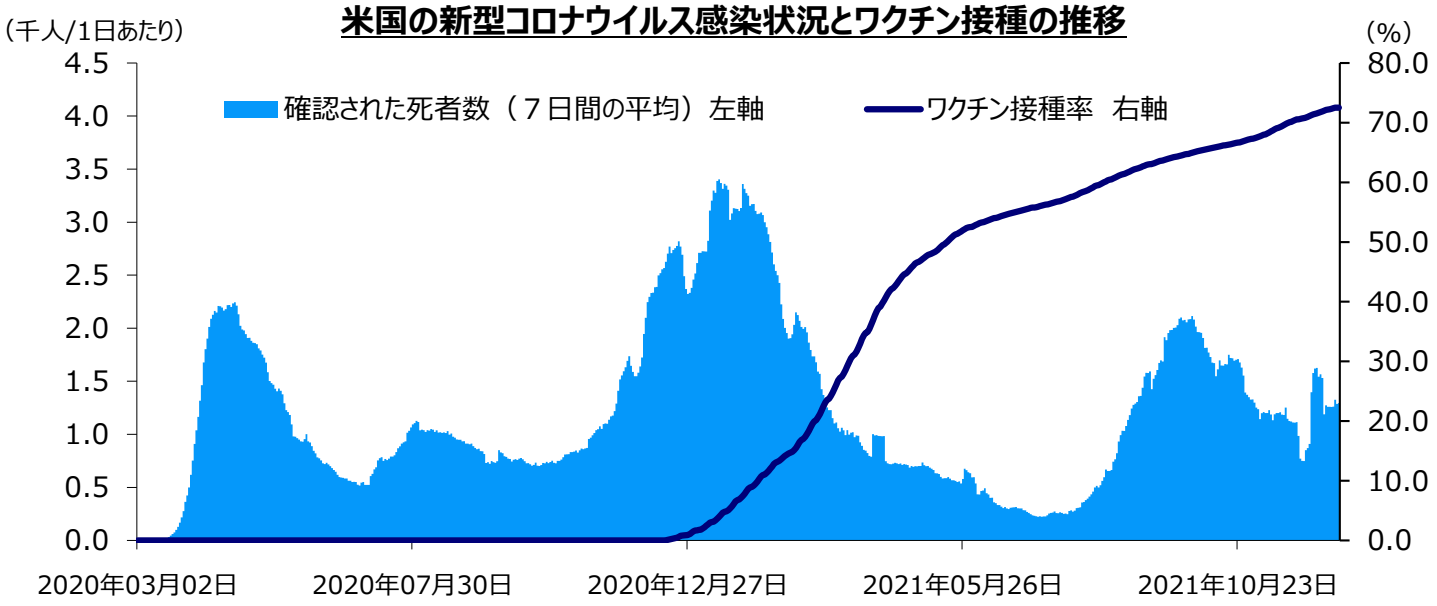
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

3 新型コロナウイルス感染状況と各国経済対策：経済正常化へ向けた進展に期待

米国では、2021年夏に新型コロナウイルスの変異ウイルス「デルタ株」の感染が拡大しましたが、ワクチン接種の進展などを要因に、死者数の増加は抑制されました。新たな変異ウイルス「オミクロン株」の出現は懸念されますが、追加接種することで既存のワクチンの有効性が高まるとの見解も公表されており、2022年に向けて経済の正常化が進むことが期待されます。

米国の新型コロナウイルス感染状況とワクチン接種の推移



新型コロナウイルス感染防止措置の影響による経済の落ち込みに対応し、各国・地域の政府や中央銀行は過去に例を見ない規模の経済対策を実施しています。さらに、米国や日本では新たな大型経済対策を発表・審議しており、経済の正常化に向けて今後も長期的に景気を下支えする姿勢を鮮明にしています。

日米欧の経済対策

	経済対策	内容
米国	インフラ投資法	高速道路や道路、橋などの輸送インフラや、ブロードバンドなどの整備に投資。総額1.2兆米ドル規模。2021年11月に成立。
	ビルドバックベター（よりよき再建）法案	気候変動や社会保障関連に歳出する、バイデン政権の看板政策。子育て支援、クリーンエネルギー、ヘルスケア、住宅支援などに注力する。
日本	大型経済対策	新型コロナウイルス対策、個人・事業主への給付金、10兆円規模の大学ファンドなどに投資。31.6兆円の補正予算を含む、55.7兆円規模の大型経済対策。
欧州	欧州復興基金	新型コロナウイルスで落ち込んだ欧州各国の経済を支えるため、2020年7月に基金の設立で合意。規模は7500億ユーロ。

【上段グラフ】出所：Our World in Dataのデータを基にインベスコ・アセット・マネジメントにて作成。期間：2020年3月2日～2021年12月16日
上記は過去のデータであり、将来の成果などをお約束するものではありません。
【下段図表】出所：各種資料より、インベスコ・アセット・マネジメントにて作成。上記の情報は、2021年12月時点のものです。

Invesco

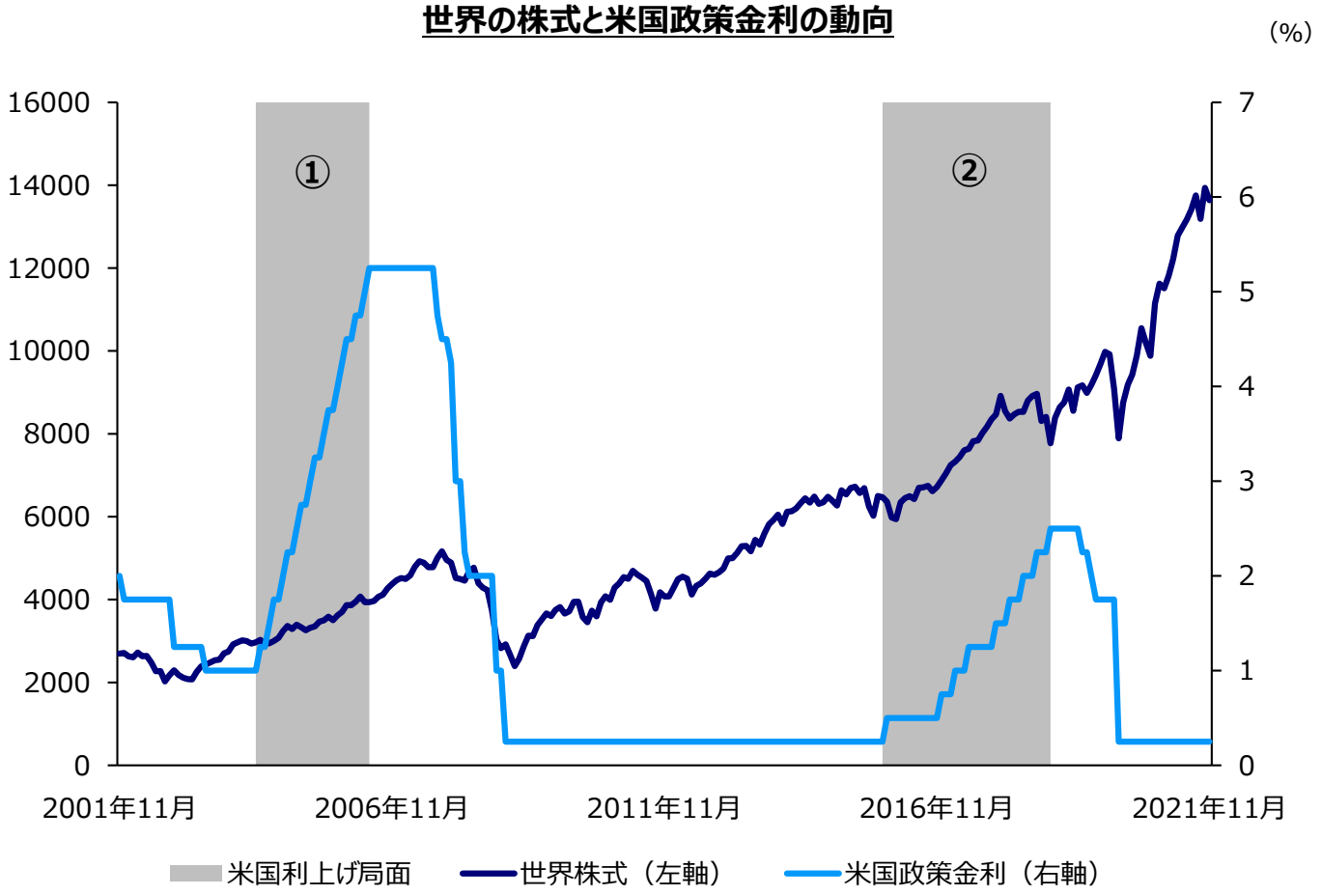
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

4 金利上昇が株式市場に与える影響：金利上昇の恩恵を受けやすい業種構成

2021年11月、米連邦準備理事会（FRB）は、量的金融緩和の縮小（テーパリング）の開始を決定しました。今後、金利の上昇が予想されますが、過去の米国の利上げ局面を見ると、世界の経済成長の拡大が続いたことや、FRBが景気に配慮した政策運営を行い、また、市場と丁寧なコミュニケーションをとったことなどを背景に、世界の株式市場は上昇基調で推移しました。現在、世界経済は回復基調にあることから、今後の株式市場も上昇が続くことが期待されます。

世界の株式と米国政策金利の動向



米国利上げ局面	米国政策金利	世界株式の上昇率
①2004年6月－2006年6月	1.00%→5.25%	+32.7%
②2015年12月－2018年12月	0.25%→2.50%	+20.1%

【グラフ】ブルームバーグ。期間：2001年11月末~2021年11月末、月次。
世界株式はMSCIワールド指数（米ドルベース、トータル・リターン）、米国政策金利はフェデラル・ファンド金利を使用。
各利上げ局面の世界株式の上昇率は、利上げ実施月の前月末から終了月の月末までの数値を元に計算。
上記は過去のデータであり、将来の成果を保証するものではありません。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

米連邦準備理事会（FRB）の金融政策の転換を受けて、金利が上昇する可能性がありますが、業種によって受ける影響は異なります。金利上昇がプラスに作用することが見込まれる業種、反対にマイナスに作用することが見込まれる業種は以下の通りです。

プラスの作用が見込まれる業種

金融
金利収入の増加要因であるため

一般消費財・サービス
期待インフレを織り込んだ金利上昇であれば、財・サービスの需要増加につながるため

マイナスの作用が見込まれる業種

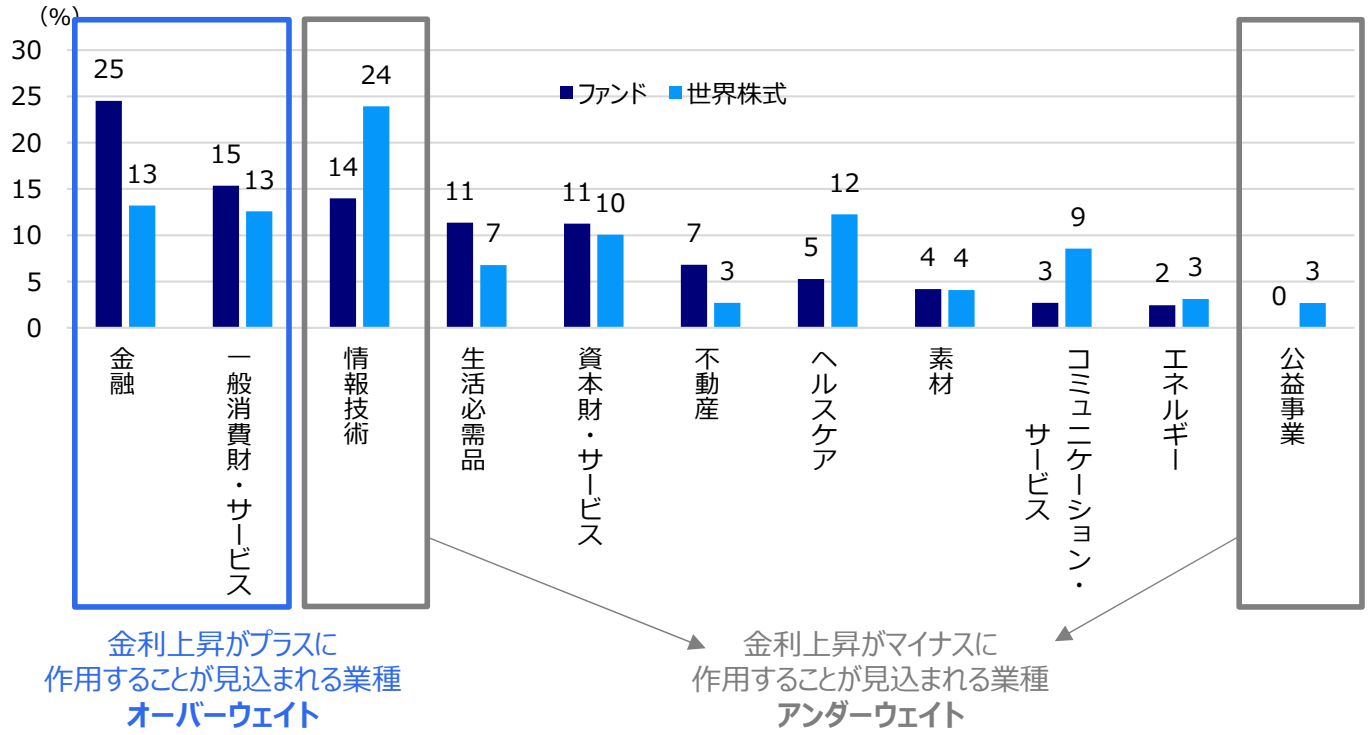
情報技術
実績よりも将来の成長期待を大きく織り込んだ株価水準であり割高である企業が多いため

公益事業
企業のバランス・シート上における債務比率が高く、金利の支払い負担が増加するため

※上記は一例であり、金利上昇におけるすべての影響を網羅するものではありません。また、将来の運用成果などをお約束するものではありません。

当ファンドは、世界株式指数と比較すると金利上昇の恩恵を受けやすい業種構成となっています。下記グラフに目を向けると、世界株式と比較して、金利上昇がプラスに作用すると見込まれる業種がオーバーウェイト、マイナスに作用すると見込まれる業種がアンダーウェイトとなっています。

当ファンドと世界株式の業種構成比較（2021年11月末時点）



出所：インベスコ。世界株式：MSCIワールド・インデックス。
※上記は現金等を除いているため、当ファンドの合計は100%になりません。
※本頁における当ファンドとは、ファンドが投資対象とするマザーファンド、「インベスコ　世界先進国株式　マザーファンド」を指します。
※業種は、世界産業分類基準（GICS）に基づいています。
※当ファンドの組入比率は、月次運用レポートの比率とは集計方法が異なるため、当該レポートの数値と差異が生じる場合があります。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

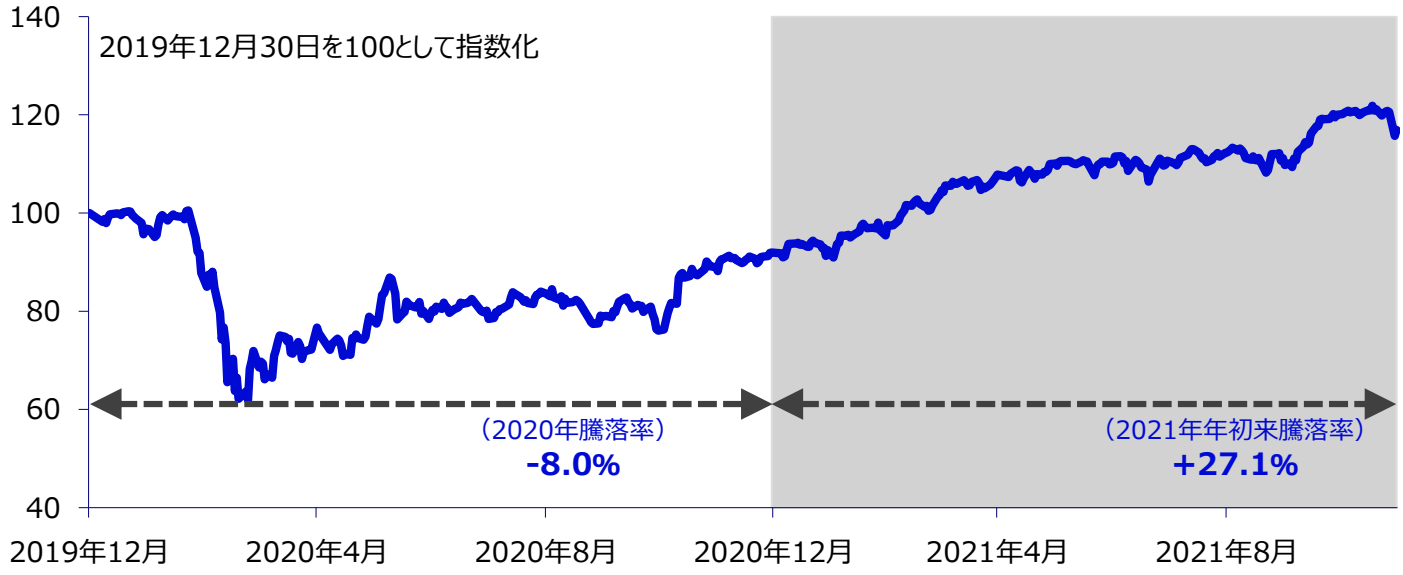
<為替ヘッジあり>（毎月決算型）／<為替ヘッジなし>（毎月決算型）
<為替ヘッジあり>（年１回決算型）／<為替ヘッジなし>（年１回決算型）

5 当ファンドの運用状況：基準価額はコロナ・ショック以前の水準を回復

ポイント

1．金利上昇、経済正常化期待から割安株が見直される局面は、当ファンドの追い風に
2．長期の水準に目を向けると、これまでの成長株式優位な偏りが修正されていく可能性
3．過去を振り返ると、長期的には成長株式よりも割安株式が優位に推移

1．2020年以降の運用状況（為替ヘッジなし、毎月決算型）



（2020年の運用状況）大幅下落の後、各国・地域における景気支援策やワクチン開発への期待から上昇基調に転換

- 2020年2月から3月にかけて、世界の株式市場は新型コロナウイルスの世界的な感染の拡大を受けて大幅に下落、当ファンドの基準価額も大きく下落しました。
- しかし、その後は、各国中央銀行の大胆な金融緩和策や各国政府の経済支援策を背景とした経済回復への期待から株式市場は反発、当ファンドの基準価額も上昇に転じました。
- また、2020年11月に入ると、新型コロナウイルス・ワクチン開発への期待感などから株式市場は一段と上昇、当ファンドの基準価額も上昇が続きました。

（2021年の運用状況）米長期金利上昇などを受け調整局面があったものの、経済正常化への期待から上昇基調が継続

- 2021年に入り、世界各国で新型コロナウイルス・ワクチン接種が開始され、経済の正常化が期待される中、株式市場は上昇基調で推移しました。その後、新型コロナウイルスの変異ウイルス「デルタ株」の感染拡大への懸念、各国のインフレ高進への警戒感、米連邦準備理事会（FRB）によるテーパリング（量的金融緩和の縮小）開始の発表などが重しとなり、軟調な局面も見られましたが、総じて好調な企業決算や良好な経済指標、経済再開への期待感を受けて、株式市場は堅調な展開となりました。
- 当ファンドの基準価額は、デルタ株の感染拡大への懸念から株価が下落する局面においても、個別銘柄選択が功を奏し、総じて上昇基調で推移しました。

【グラフ、騰落率】出所：インベスコ・アセット・マネジメント。期間：2019年12月30日～2021年11月30日、日次
グラフデータおよび騰落率は、課税前分配金再投資基準価額（信託報酬（年率1.903%（税抜1.73%）控除後）を使用しています。
騰落率の計算期間：2020年は2019年12月30日～2020年12月30日、2021年年初来は2020年12月30日～2021年11月30日、他コースにおけるそれぞれ同期間の騰落率は、（為替ヘッジあり、毎月決算型）-5.5%、+18.2%　（為替ヘッジあり、年1回決算型）-5.7%、+18.7%　（為替ヘッジなし、年1回決算型）-7.1%、+27.0%です。
上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

Invesco

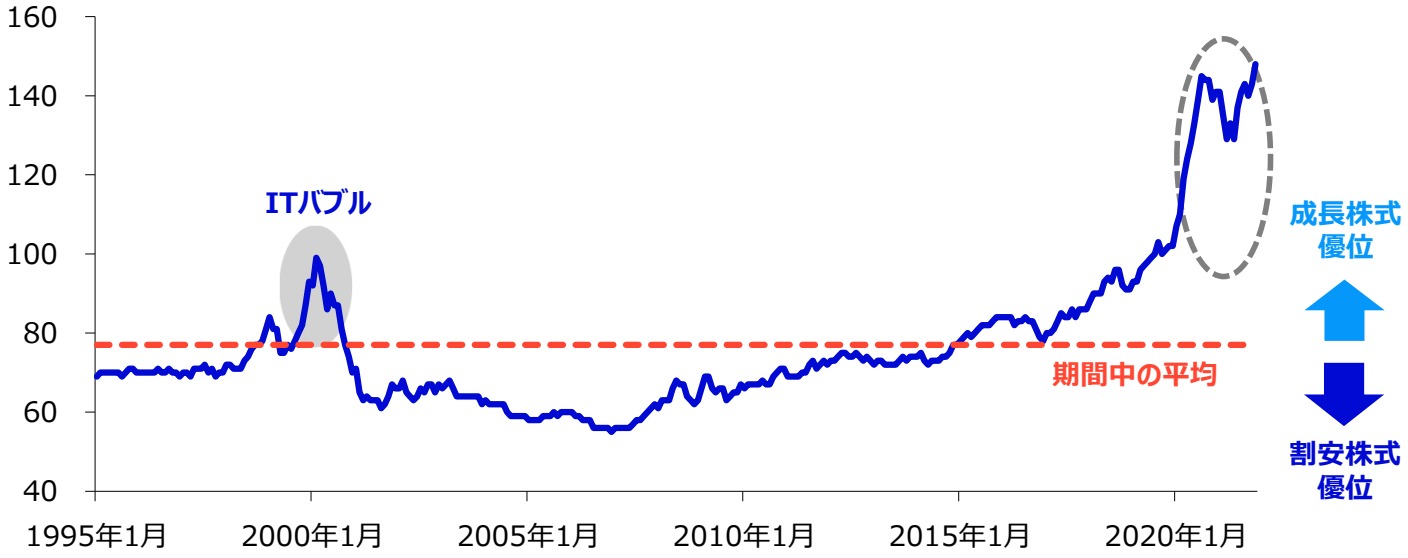
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

ポイント

1．金利上昇、経済正常化期待から割安株が見直される局面は、当ファンドの追い風に
2．長期の水準に目を向けると、これまでの成長株式優位な偏りが修正されていく可能性
3．過去を振り返ると、長期的には成長株式よりも割安株式が優位に推移

2．世界割安株式と世界成長株式の相対パフォーマンス＊



＊世界割安株式と世界成長株式の相対パフォーマンスは、世界成長株式の株価を世界割安株式の株価で除し、100を乗じた値を使用しています。

- 世界株式を割安株式と成長株式に分けて見た場合、過去約10年間は成長株式優位の傾向が続きましたが、**現在はITバブルを大きく超える水準まで偏りが生じており、長期の水準に目を向けると、これまでの成長株式優位な偏りが修正されていく可能性**が考えられます。
- 2020年2月から3月にかけてのコロナ・ショック以降、異次元の量的緩和政策による低金利の状況も追い風となり、成長株式が割安株式を大きく上回り上昇しましたが、その期待感は過剰なものとの見方から2020年末から成長株式が調整する局面がありました。
- 2021年以降は金利上昇とともに、割安株式が見直される場面が散見され始めており、**2021年末の米連邦公開市場委員会（FOMC）でテーパリング終了の前倒し決定と利上げの方向性が確認されたことや、新型コロナウイルスの変異ウイルスであるオミクロン株への過度な警戒感が後退し経済活動正常化への期待が再度高まったことを受け、2022年は割安株優位の展開となる可能性があります。**

【グラフ】出所：ブルームバーグ。期間：1995年1月末~2021年11月末、月次。
世界割安株式はMSCIワールドバリュー株指数、世界成長株式はMSCIワールドグロース株指数（それぞれ米ドルベース、プライス・リターン）を使用。
上記は過去のデータであり、将来の成果を保証するものではありません。

Invesco

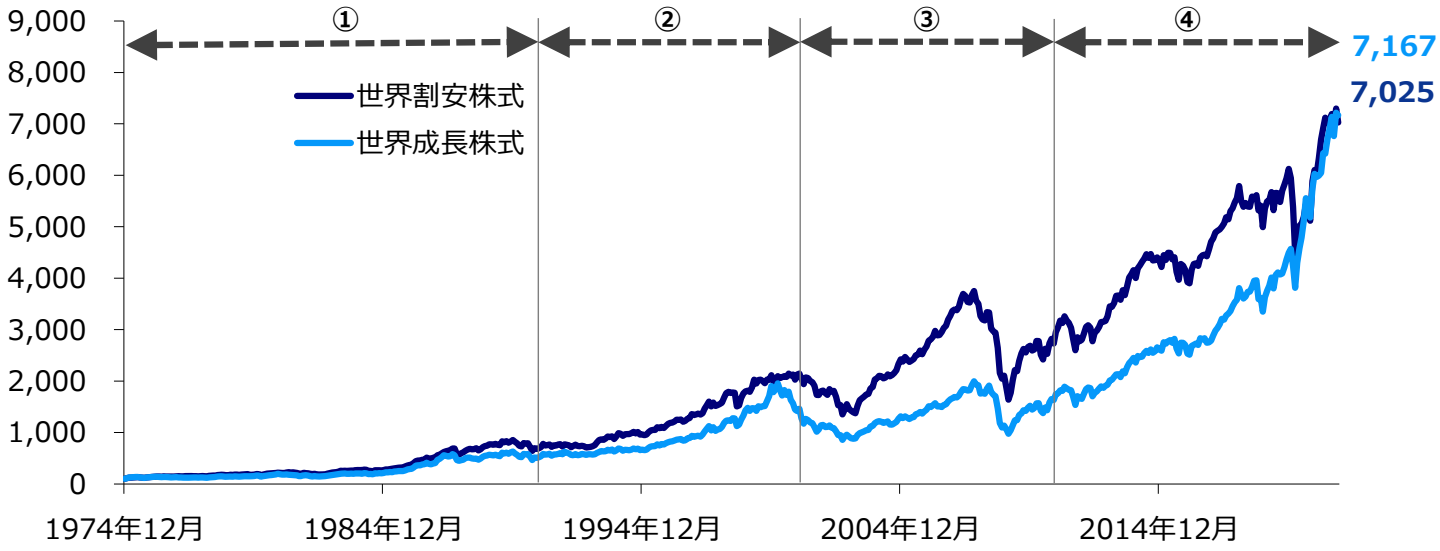
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

ポイント

1．金利上昇、経済正常化期待から割安株が見直される局面は、当ファンドの追い風に
2．長期の水準に目を向けると、これまでの成長株式優位な偏りが修正されていく可能性
3．過去を振り返ると、長期的には成長株式よりも割安株式が優位に推移

3．世界の割安株式と成長株式の長期パフォーマンス比較



	①1975年1月-1990年12月	②1991年1月-2000年12月	③2001年1月-2010年12月	④2011年1月-2021年11月
世界割安株式	+590.7%	+207.6%	+38.8%	+138.2%
世界成長株式	+417.6%	+173.8%	+23.0%	+311.1%

■ 割安な株式に投資するということは、**安いものを買って高く売るという基本原則に沿ったアプローチ**です。割安な株価水準にある銘柄は、更に株価が下がる**下値余地が限定的であると考えられる一方、株価上昇余力が十分にある**といえます。

■ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、感染動向の予測が難しいことや、感染拡大が企業業績に及ぼす影響が不透明であるため、業績の見通し以上に株価が下落している銘柄は多く、株価が企業の清算価値以下の銘柄も多く存在しています。

■ このように割安に放置された銘柄は、新型コロナウイルス関連の不透明要因が払しょくされ、企業価値や業績が見直される中で、株価が上昇する可能性があると考えられます。**過去を振り返ると、長期的には成長株式よりも割安株式が概ね優位に推移しています（上グラフ参照）。**2020年11月以降は成長株式の偏重が修正され、割安株式優位な状況が続きましたが、足元は業績不安の小さい大型グロース株式が上昇し、成長株式が割安株式に対して優位な展開となっています。

【グラフ】出所：ブルームバーグ。期間：1974年12月末～2021年11月末、月次。
世界割安株式はMSCIワールドバリュー株指数、世界成長株式はMSCIワールドグロース株指数（それぞれ米ドルベース、トータルリターン）を使用。
図表の騰落率は、①は1974年12月末-1990年12月末、②は1990年12月末-2000年12月末、③は2000年12月末-2010年12月末、④は2010年12月末-2021年11月末の数値を元に計算。
上記は過去のデータであり、将来の成果を保証するものではありません。

Invesco

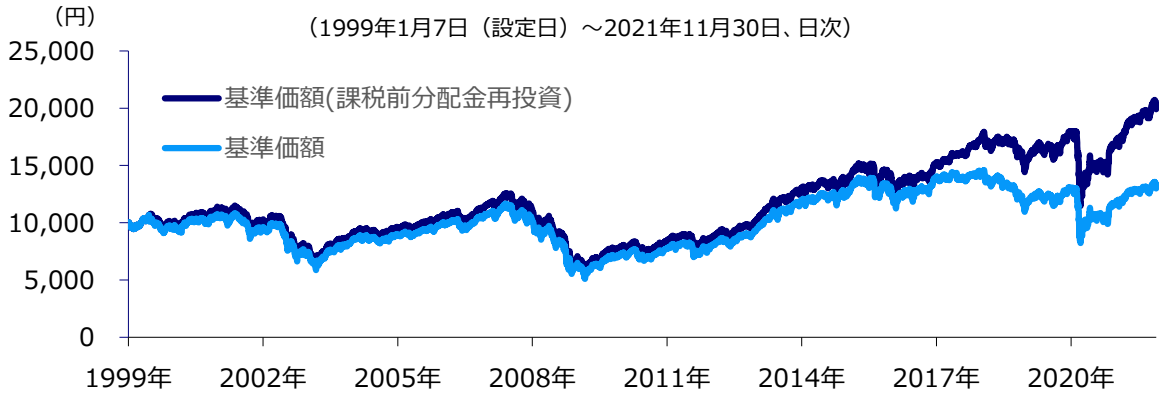
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

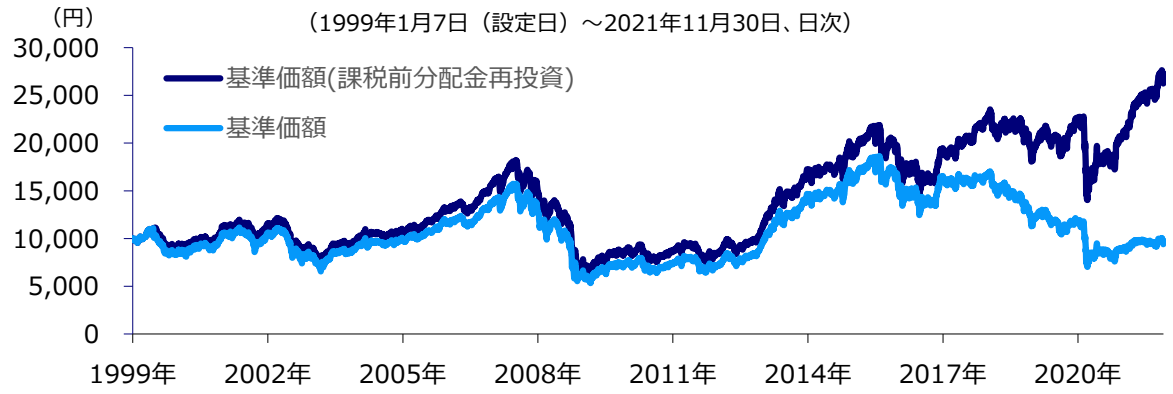
（ご参考）当ファンドの基準価額の推移

毎月決算型

為替ヘッジあり



為替ヘッジなし



年１回決算型

為替ヘッジあり

為替ヘッジなし

出所：インベスコ・アセット・マネジメント
※基準価額は、信託報酬（年率1.903%（税抜1.73%））控除後のものです。
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

お申込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

6 毎月決算型の分配原資と分配金：豊富な分配原資、コロナ禍でも分配金を引き下げず

足元の1万口当たり分配原資と分配実績（課税前）

為替ヘッジあり

分配原資	
2021年11月24日現在	**8,118円**

分配金	
2021年5月	40円
2021年6月	120円
2021年7月	40円
2021年8月	40円
2021年9月	120円
2021年10月	40円
2021年11月	40円
設定来累計	**5,310円**

為替ヘッジなし

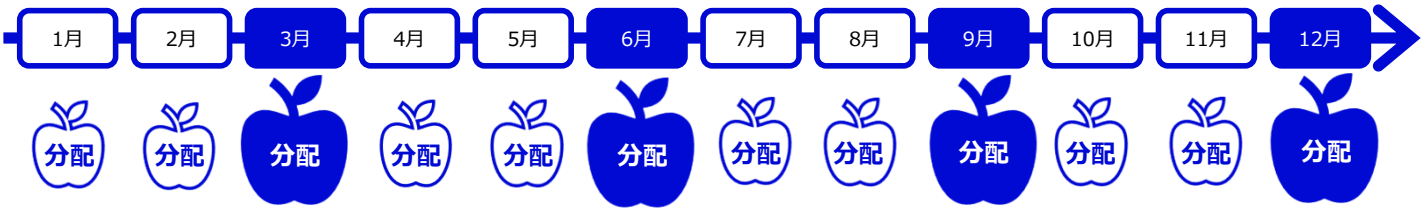
分配原資	
2021年11月24日現在	**9,292円**

分配金	
2021年5月	150円
2021年6月	150円
2021年7月	150円
2021年8月	150円
2021年9月	150円
2021年10月	150円
2021年11月	150円
設定来累計	**12,100円**

出所：インベスコ・アセット・マネジメント
上記分配金は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

毎月決算型の分配方針

毎月決算型に関しては、毎年３月、６月、９月、12月の決算時には、通常月の分配に加えて、基準価額の水準等を鑑みて、**付加的な分配を行う場合**があります。



※イメージ図

分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。
分配金額は、委託会社が、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。毎年３月、６月、９月、12月の決算時には、委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

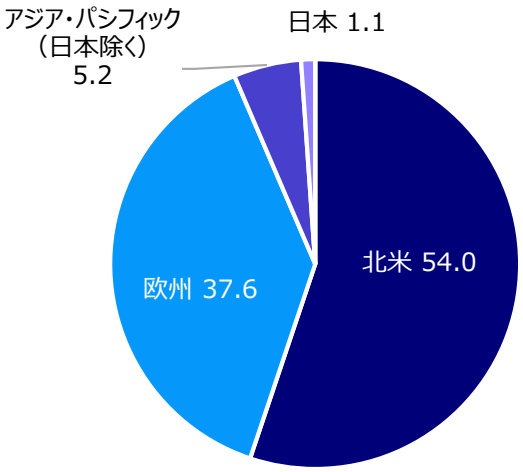
＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

7 組入銘柄のご紹介と業種別見通し：代表的な組入銘柄とコロナ禍における業種別見通し

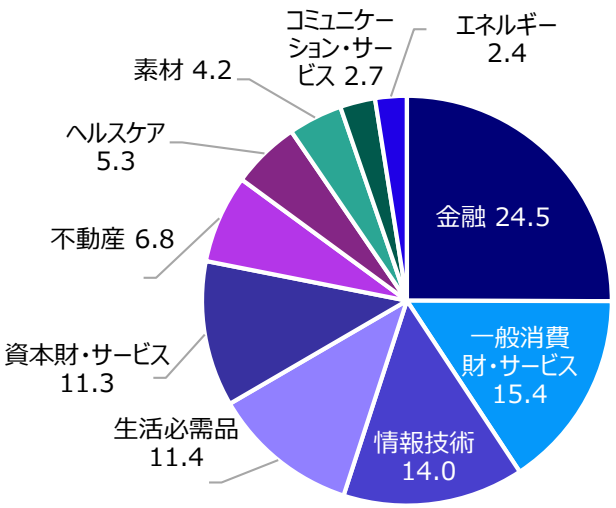
地域別・業種別の組入比率（2021年11月末時点、単位：%）

当ファンドの組入比率

地域別

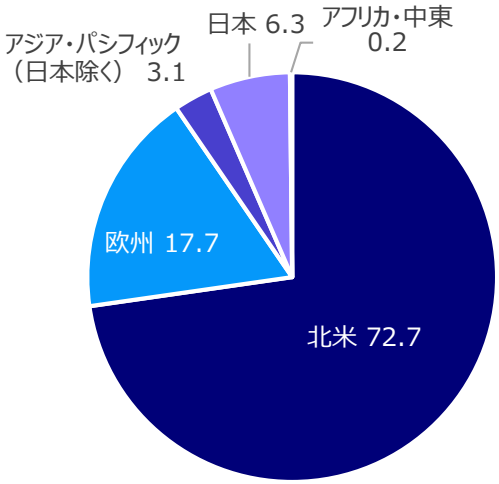


業種別

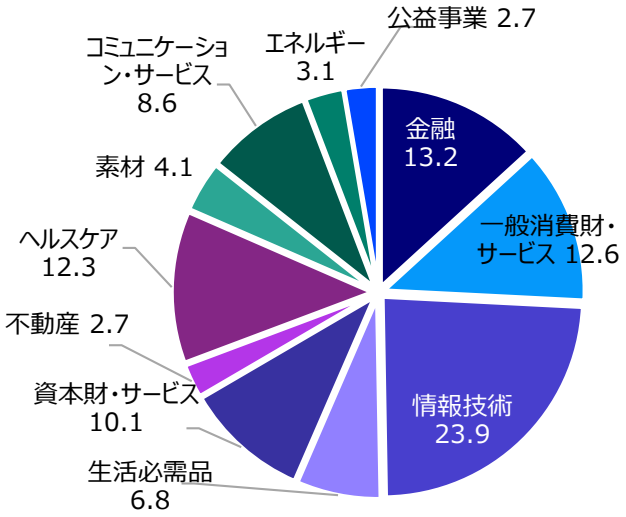


（ご参考）世界株式の組入比率

地域別



業種別



出所：インベスコ・アセット・マネジメント。世界株式：MSCIワールド・インデックス。
※上記は現金等を除いているため、当ファンドの合計は100%になりません。
※当ファンドとは、ファンドが投資対象とするマザーファンドである「インベスコ　世界先進国株式　マザーファンド」を指します。
※業種は、世界産業分類基準（GICS）に基づいています。
※当ファンドの組入比率は、月次運用レポートの比率とは集計方法が異なるため、当該レポートの数値と差異が生じる場合があります。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

<為替ヘッジあり>（毎月決算型）／<為替ヘッジなし>（毎月決算型）
<為替ヘッジあり>（年１回決算型）／<為替ヘッジなし>（年１回決算型）

ポイント

今後の投資方針

当ファンドでは引き続き、高い利益成長が見込まれ、質の高い配当が期待できる企業で、割安な株価水準で取引される株式の組み入れを行っています。

業種別の見通し

1. ウィズ･コロナの新時代を先導する業種
情報技術、ヘルスケア、コミュニケーション･サービス

2. アフター･コロナの景気回復により恩恵を受ける業種
金融、一般消費財･サービス、素材、生活必需品

3. その他の業種
不動産、資本財･サービス、エネルギー、公益事業

※以下、当ファンドにおける組入銘柄は、上記の業種別の分類における業種に属する銘柄のうち、当ファンドが組み入れる代表的な銘柄を紹介するものです。紹介する銘柄は、当資料作成時点の組入銘柄であり、将来の組み入れを約束するものではなく、当該銘柄に対する投資を推薦、勧誘するものでもありません。また、過去のデータであり、将来の運用成果などを保証するものではありません。
※以下、当業種の今後の見通しについては、インベスコ･アセット･マネジメント･リミテッドにおけるグローバル株式チームが作成した、2022年の見通しの英文資料を弊社が抄訳･編集を行ったものであり、将来の成果などを保証するものではありません。

1. ウィズ･コロナの新時代を先導する業種

情報技術

当ファンドにおける組入銘柄

マイクロソフト　（国名：米国）

パソコン用OS、オフィス･ソフト、家庭用ゲーム機等を開発提供するソフトウェア企業。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- パソコン用OS、オフィス･ソフトの圧倒的なシェアを背景に**DX（デジタル･トランスフォーメーション）の加速の恩恵を受け、業績拡大**が継続。今後もTeams、Azure等、リモート･ワークに必要なプラットフォームの普及による利益成長を期待。
- 付加価値の高いソフトウェアの開発を続ける中、長年、利益成長を遂げ、**10年以上、増配を継続**。

株価推移

出所：インベスコ･アセット･マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- 半導体とソフトウェア企業は、5G、IoT、クラウドという長期的な構造変化の追い風を受け、**バランスシートは一般的に業種全体で健全。**
- 株価は足元、高値警戒感から軟調な動きとなっているものの、長期的に**市場全体をアウトパフォームすると予想される。**

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】
＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

1. ウィズ・コロナの新時代を先導する業種（つづき）

ヘルスケア

・米国においては、**ヘルスケア・システムの抜本的な見直しや、医薬品価格の大幅な引き下げの実現は難しい**と考える。
・大型製薬会社の株価は、ディフェンシブな性質を持つ他の業種と比較した場合、**魅力が高まっている**ものの、米国での薬価改革のリスクや欧州での薬価引き下げ圧力には注意が必要。
・医療機器、医療装置、検査媒体、病院向けソリューションなどを提供する企業は、規制によるリスクは限定的で、ヘルスケア・セクターにおける**テーマ別の成長機会から恩恵を受けることができる**と見込まれる。

コミュニケーション・サービス

・比較的良好な業績と高い配当水準にもかかわらず、コロナ危機後の株価の反発局面において、**通信会社株は出遅れ感あり。**
・Alphabet（アルファベット）などの広告主導の巨大IT企業については、不況に対しての強い抵抗力が見られ、**最近の株価は非常に力強く、株価バリュエーションは非常に魅力的**と考える。
・今後、多くの巨大SNSメディアおよび電子商取引のプラットフォーマーに対する**独占禁止法の観点によるさらなる介入が続く可能性が高い**ことには注意が必要。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

2. アフター・コロナの景気回復により恩恵を受ける業種

金融

当ファンドにおける組入銘柄

JPモルガン・チェース（国名：米国）

世界60以上の国・地域でビジネスを展開するグローバル金融グループ。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- 世界経済の最悪期は過ぎ、今後も与信費用の減少は続く。また、新型コロナウイルスの感染状況の鎮静化による経済の回復から**与信が伸び、更に長期金利の上昇による利ざやの拡大から業績の向上が見込まれる。**
- コロナ禍の2020年においても配当を維持、**世界金融危機以後、増配を継続。**

株価推移

プログレッシブ・コープ（国名：米国）

米国で自動車保険を中核事業とする損害保険会社。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- 通販型自動車保険の先駆けで、迅速な交通事故処理、保険金支払いに高い評価。**市場シェアの拡大、高収益保険契約者の積極的な取り込みにより、更なる利益成長を期待。**
- 保険代理店事業から直接販売事業へのシフトによって利益率が更に改善、**好調な業績を背景に特別配当を発表。**
- 増収増益を続けるも、未だ、**株価はその成長を織り込んでおらず、割安な水準**にある。

株価推移

出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

Invesco

インベスコ 世界厳選株式オープン 【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

2. アフター・コロナの景気回復により恩恵を受ける業種（つづき）

金融

当ファンドにおける組入銘柄

3iグループ（国名：英国）

プライベート・エクイティ・ファンド、インフラストラクチャー・ファンドを中心に運用する資産運用会社。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- ニッチなアセット・クラスに特化し、運用資産額は増加。プライベート・エクイティ、インフラストラクチャーは運用報酬率が高く、高い利益率を維持。**インフラストラクチャーは、世界各国政府の経済対策とも絡み、更なる投資機会の増加が見込まれる。**
- 新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞による影響は軽微であり、高い投資リターンを維持。
- 特化するアセット・クラスの特性から運用資産額の増減は小さく、また、**高い利益率から安定した配当を維持。**

株価推移

出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- 各国でのワクチン接種の進展から経済回復基調が高まったことを背景に、新型コロナウイルスによる経済活動の停滞から生じていた**貸倒引当金の戻入と貸し出しの増加により、欧州と米国で2021年7-9月期の決算は好調な結果に。**
- 強固な地位を確立し、財務基盤の健全な金融機関については、**景気の回復や経済正常化に伴う恩恵を受けることが予想**される。
- 経済活動の正常化への期待やインフレ期待の上昇を背景に米国の長期金利が上昇したことから、当業種の株価は景気回復後の姿を織り込んで上昇。株価バリュエーションは上昇しているものの、今後景気回復に伴う利益の拡大により、**株価は堅調に推移すると考える。**
- 保険会社は、新型コロナウイルスの感染拡大の経済活動停滞の影響で自動車保険や旅行保険の販売低迷など逆風の状況が続いたが、**財務状況は健全で、今後経済活動再開に伴う業績改善が見込まれているため、**株価は割安な水準であり、投資妙味が高いと考える。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

2. アフター・コロナの景気回復により恩恵を受ける業種（つづき）

一般消費財・サービス

当ファンドにおける組入銘柄

ソニーグループ（国名：日本）

エレクトロニクス事業を中心とした、グローバル・コングロマリット企業。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- バランス・シートのスリム化、事業の見直し・再編を経て、**足元は業績の改善が鮮明**。
- 2020年11月、ゲーム機器プレイステーション5を発売すると高速、高画質が話題となり予約が殺到し、**利益成長に大きく貢献**。今後も、**従来の電子機器の製造や販売**に加え、**ゲーム事業や音楽事業などの長期的な成長が期待できる。**
- 長年の事業再構築を経て**2015年に復配、その後、増配を継続**。
- 株価は上昇基調にあるが、**未だ割安な水準**にあり、今後も株価の上昇を期待。

株価推移

フォルクスワーゲン　（国名：ドイツ）

自動車販売トップ・シェアを誇る世界最大級の自動車メーカー。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- フォルクスワーゲン・ブランドの他、アウディ、ポルシェ、ベントレー、ランボルギーニ等、大衆車から超高級車ブランドまで傘下に持つ世界最大級の自動車メーカー。**高品質・高性能ブランドとして高い知名度を誇り、安定成長**を続ける。
- コロナ禍での**ソーシャル・ディスタンス維持手段としての自動車の需要拡大、**脱炭素化の流れを受け、**EV（電気自動車）への買い替え需要により更なる利益成長を期待。**
- 高い自動車販売シェア維持を背景に**20年超配当を継続**。一方、自動車業界における競争の激化が懸念され、**足元では株価は調整、割安な水準にある。**

株価推移

出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- **見通しは中立**だが非常に多様性に富んでいる業種であり、 個別銘柄によっては魅力的な投資機会が存在する。
- 米国や欧州の消費者はコロナ禍で貯蓄が増えており、**経済正常化に伴うリベンジ需要**が今後見込まれることが追い風になると考えるが、**旅行に関連する企業は、既に好材料とされるニュースが織り込まれている**ため、注意が必要。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

2．アフター・コロナの景気回復により恩恵を受ける業種（つづき）

素材

当ファンドにおける組入銘柄

ベラリア　（国名：フランス）

世界で事業を展開するフランスの大手容器メーカー。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- 食品・飲料用のガラス製の瓶、容器などの販売に従事しており、**欧州のガラス業界で、強固なポジションを確立**。
- コロナ禍においても売上は増加しており、今後も、新型コロナウイルスの感染拡大の落ち着きによりレストランやサービス業が再開される中で、**大幅な売上の増加や利益率の向上が見込まれる**。
- **健全な収益性やキャッシュフロー創出力からも今後、配当成長が期待**できる。
- 2019年に上場後、**市場はまだ同社の事業の本質的な価値を評価していない**と考える。足元では、新型コロナウイルスの変異ウイルス「オミクロン株」の感染拡大が懸念され、**株価は調整、バリュエーションも魅力的な水準にあると見込む**。

株価推移

出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2019年10月3日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- 金属、鉱業、化学企業など同セクターの企業は、景気の影響を受けやすく、中国の景気減速など世界経済の先行きに対する楽観的な見通しは弱まってきているため、**個別銘柄選択がより重要な業種**と考える。
- インフレに対しては耐性のある企業が多く、過去10年間の設備投資の水準が相対的に低いことは魅力的であり、**クリーンエネルギーへの移行を背景とした資源需要の高まりで恩恵を受ける**個別企業には投資妙味が高いと考える。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

2．アフター・コロナの景気回復により恩恵を受ける業種（つづき）

生活必需品

当ファンドにおける組入銘柄

コカ・コーラ（国名：米国）

500以上のブランドを200ヵ国以上で供給する飲料メーカー。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- **潤沢なキャッシュフローを背景に35年間増配を継続**、株主還元に積極的な優良企業。
- 圧倒的なブランド力を誇るも、新型コロナウイルス感染拡大による各種イベントの中止、無観客、入場者数制限等の措置を受け、**外食やスポーツ観戦などでの家庭外需要が落ち込み、一時的に業績は悪化**。
- 今後、新型コロナウイルスのワクチンの普及により経済が正常化し、**外食需要やスポーツ観戦需要などが戻る中で業績の回復を期待**。
- 需要低迷への懸念から、**株価は2020年3月の高値を依然下回る水準にあり、割安と考える。**

株価推移

出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- 当業種は底堅い動きをする企業が多く、**最近の急速な株式市場の回復局面においては出遅れ**ており、投資妙味のある割安な銘柄が存在すると考えている。
- 当業種は、非常に多様性に富んでおり、様々な企業が存在するが、**外食需要など経済正常化の恩恵を受ける銘柄にはより投資妙味がある**と考えている。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

3. その他の業種

不動産

当ファンドにおける組入銘柄

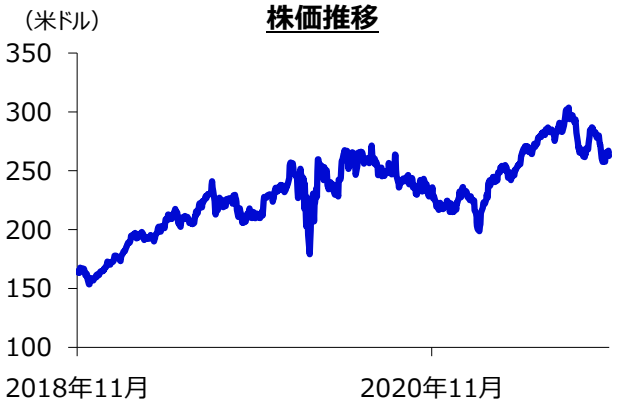
アメリカン・タワー（国名：米国）

米国の不動産投資信託（REIT）。米国内でワイヤレス通信および放送用タワーの保有、運営、開発に従事。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- **参入障壁が高く、業界内で圧倒的な地位を確立**している点を評価。また、**アンテナや設備はテナントが所有しているため、設備投資額が少ない**点も評価。
- 今後、**5Gの進展に伴うデータ通信量の増加により通信タワーへの需要が拡大することが見込まれ、更なる成長が期待**できる。
- 潤沢なキャッシュフローを背景に**過去10年間増配を継続**、**株主還元に積極的な優良企業**。また**過去5年間の平均配当成長率は約20%と高水準**。
- 株価は上昇基調にあるが、**未だ割安な水準にあるとみており、今後も株価の上昇を期待**。

株価推移



出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- 米バイデン政権が発表した増税を伴う**総額約4兆ドル規模のインフラ投資も追い風**となると予想。
- コロナ危機により、Eコマースの普及などライフスタイルのデジタル化が加速。当業種ではその変化を下支えする、**倉庫、データ通信量の増加により需要が拡大する通信タワーなど、ニッチな領域の企業が好調と予想**。
- 金利上昇は向かい風ではあるものの、業種内における個別銘柄選択が重要なカギとなる。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

3. その他の業種（つづき）

資本財・サービス

当ファンドにおける組入銘柄

ユニオン・パシフィック（国名：米国）

米国の最大規模の貨物鉄道会社。米国西部3分の2の約23州をまたぐ鉄道網を持つ。

ファンドマネージャーの注目ポイント

- 中国などアジアとの貿易の増加の恩恵を最も受ける西海岸や、メキシコなどの主要な地域へのアクセスが可能であり、**地理的優位性を持つ**。米国西部ではバーリントン・ノーザン・サンタフェ社と共に**独占的な地位を確立**。
- 鉄道は他の交通機関と比較し、**輸送量あたりの二酸化炭素（CO2）排出量が少ない**上に、**エネルギー消費効率が良い**ため**ESG評価が高い点についても評価**。また、インフレの高まりに対するヘッジ効果を発揮することが期待できる。
- **過去５年間で２けたの配当成長**を遂げており、今後も、**健全な収益性から配当成長が期待**できる。
- 株価は上昇基調にあるが、**未だ割安な水準にあるとみており、今後も株価の上昇を期待**。

株価推移

出所：インベスコ・アセット・マネジメント、ブルームバーグ。グラフ期間：2018年11月30日～2021年11月30日

当業種の今後の見通し

- 当業種には非常に多様な企業があり、**それぞれのビジネスのエンドマーケットの需要と、各企業のバランスシートの健全性が、パフォーマンスのカギとなると考える。**
- 再生可能エネルギーや鉱業に関連するビジネスを行う企業は好調さを維持すると考えられる一方、民間航空やエネルギー関連するビジネスを行う企業の株式は、今後は不安定になる可能性があると予想。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】
＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

3．その他の業種（つづき）

エネルギー

・石油に対する需要は2030年頃にピークに達し、天然ガス需要はそれから少し後になると考えられる中、当業種の長期的な見通しについては、引き続き、慎重なものに。
・エネルギー株は、過去10年間、パフォーマンスが大きく低迷していたため、経済が正常化する過程では、やや恩恵を受けると予想。しかし、世界的に脱炭素の圧力はますます強くなっており、特に米国はエネルギーをより効率的に扱う社会へ進むものと考える。

公益事業

・債券利回りと経済の影響を受けやすい業種であり、**今後、急速な経済の回復とイールドカーブのスティープニング化により、パフォーマンスは低下**することが見込まれる。
・当業種は規制などにより、成長が抑制されることが多い業種であるため、再生可能エネルギーに関する各種の規制も、今後数年間のパフォーマンスを決める重要な要素となると考える。**当ファンドでは、現在当業種の銘柄は保有なし**。

Invesco

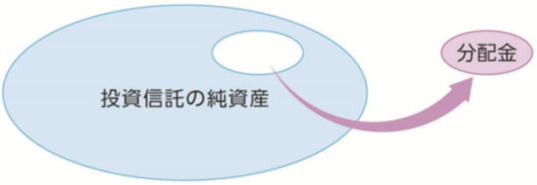
インベスコ　世界厳選株式オープン　　【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

収益分配金に関する留意事項

■分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

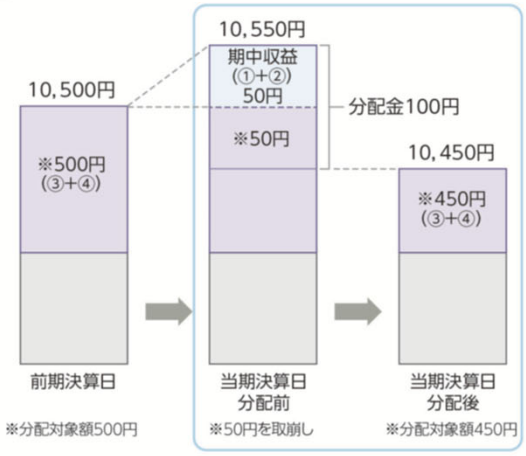
投資信託で分配金が支払われるイメージ



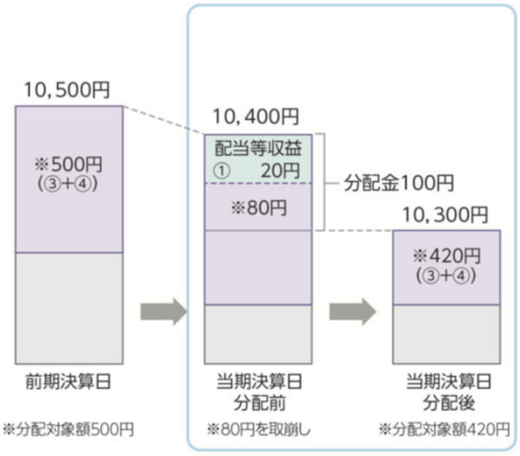
■分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

▌前期決算日から基準価額が上昇した場合



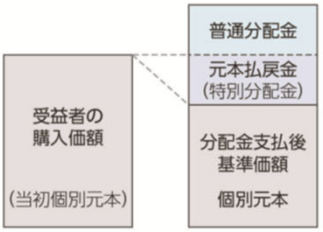
▌前期決算日から基準価額が下落した場合



（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
＊上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

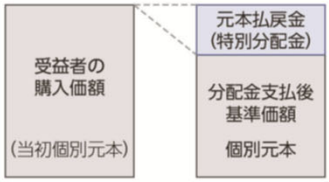
■受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

▌分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は**非課税扱い**となります。

▌分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金	個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金 (特別分配金)	個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照下さい。

Invesco

インベスコ 世界厳選株式オープン 【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

ファンドの特色

- 主としてマザーファンド※１受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチによりグローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資します。
  ※１ ファンドが投資対象とするマザーファンドは、「インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド」です。
- 銘柄選択にあたっては、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価等ファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価等に基づくボトムアップ・アプローチにより行います。
- 為替変動リスクについて、対応の異なる２つのファンドがあります。
  ■ ＜為替ヘッジあり＞では、実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。
  ■ ＜為替ヘッジなし＞では、実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。
- ■毎月決算型：原則として、毎月23日（同日が休業日の場合は翌営業日）の決算日に分配を行います。
  分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。
  ◇分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。
  ◇分配金額は、委託会社が、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
  ◇毎年３月、６月、９月、12月の決算時には、委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。
  ■年１回決算型：年１回の12月23日（同日が休業日の場合は翌営業日）の決算日に分配を行います。
  分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。
- ＜為替ヘッジあり＞はMSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）※２、＜為替ヘッジなし＞はMSCIワールド・インデックス（円換算指数）※２をベンチマーク※３とします。

※２◇MSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）とは、MSCI Inc.が算出する基準日のMSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）の数値です。
MSCIワールド・インデックス（円換算指数）とは、MSCI Inc.が算出する基準日前営業日のMSCIワールド・インデックス（米ドル指数）の数値を、委託会社が基準日当日の米ドル為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）で独自に円換算したものです。
◇MSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）およびMSCIワールド・インデックス（米ドル指数）は、MSCI Inc.が算出する株式インデックス（指数）の一つです。MSCIインデックスは、MSCI Inc.の知的財産であり、MSCIはMSCI Inc.のサービスマークです。
◇この情報はMSCI Inc.の営業秘密であり、またその著作権はMSCI Inc.に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。また、ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。
◇MSCIワールド・インデックスの構成国や構成銘柄等は、適宜見直しが行われます。したがって、ファンドの投資対象国および投資対象銘柄は事前の予告なく変更されることがあります。

※３ ベンチマークとは、ファンドのパフォーマンス評価やポートフォリオのリスク管理を行う際の基準となる指標のことです。ファンドは、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を得ることを目的としていますが、ベンチマークを上回る投資成果をあげることを保証するものではありません。

- インベスコ・アセット・マネジメント・リミテッド（英国、オックスフォードシャー）に、マザーファンドの運用指図に関する権限を委託します。

ファンドのリスク

ファンドは預貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではないため、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。

基準価額の変動要因

ファンドは実質的に国内外の株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、以下のような要因により基準価額が変動し、損失を被ることがあります。

価格変動リスク

〈株式〉株価の下落は、基準価額の下落要因です。

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績や財務状況、市場の需給などを反映し、下落することがあります。

信用リスク

発行体や取引先の債務不履行等の発生は、基準価額の下落要因です。

ファンドが投資する有価証券の発行体が債務不履行や倒産に陥った場合、または懸念される場合、当該有価証券の価格が大きく下落したり、投資資金を回収できなくなることがあります。また、投資する金融商品の取引先に債務不履行等が発生した場合に、損失が生じることがあります。

カントリー・リスク

投資対象国・地域の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です。

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の急激な変化や新たな取引規制が導入される場合などには、ファンドが投資する有価証券等の価格が下落したり、新たな投資や投資資金の回収ができなくなる可能性があります。

為替変動リスク

〈為替ヘッジあり〉為替の変動（円高）が基準価額に与える影響は限定的です。

為替ヘッジ（原則としてフルヘッジ）を行い為替変動リスクの低減に努めますが、為替変動の影響を完全に排除できるとは限りません。また、円金利が為替ヘッジを行う通貨の金利より低い場合、当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかります。

〈為替ヘッジなし〉為替の変動（円高）は、基準価額の下落要因です。

為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けることになり、円高方向に変動した場合には外貨建資産の円での資産価値が下落します。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

ベンチマークに関する留意点

ベンチマークは、今後、他の指数へ変更されることがあります。

Invesco

インベスコ 世界厳選株式オープン 【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

お申し込みメモ

購入単位	お申し込みの販売会社にお問い合わせください。 ＊分配金の受け取り方法により、「自動けいぞく投資コース」と「一般コース」の２コースがあります。
購入価額	購入の申込受付日の翌営業日の基準価額
換金価額	換金の申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金の申込受付日から起算して５営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	―
申込締切時間	原則として毎営業日の午後３時まで(販売会社所定の事務手続きが完了したもの)
換金制限	投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には一定の制限を設ける場合があります。
信託期間	■毎月決算型：無期限（設定日：1999年１月７日） ■年１回決算型：無期限（設定日：2018年10月５日）
繰上償還	■毎月決算型：信託契約の一部解約により、＜為替ヘッジあり＞および＜為替ヘッジなし＞の受益権の総口数の合計が40億口を下回ることとなった場合などは、信託期間の途中で償還することがあります。 ■年1回決算型：信託契約の一部解約により、＜為替ヘッジあり＞および＜為替ヘッジなし＞の受益権の総口数の合計が40億口を下回ることとなった場合などは、信託期間の途中で償還することがあります。
決算日	■毎月決算型：毎月23日（ただし、同日が休業日の場合は翌営業日） ■年１回決算型：毎年12月23日（ただし、同日が休業日の場合は翌営業日）
収益分配	■毎月決算型：毎月の決算日に分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ■年１回決算型：年１回の決算日に分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ＊「自動けいぞく投資コース」でお申し込みの場合は、分配金は税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除は適用されません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入の申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が定める**3.30%（税抜3.00%）以内**の率を乗じて得た額
信託財産留保額	換金の申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.30%**の率を乗じて得た額

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	日々の投資信託財産の純資産総額に**年率1.903%（税抜1.73%）**を乗じて得た額とし、投資信託財産中から以下の支払時期に支弁します。 ■毎月決算型：運用管理費用（信託報酬）は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。 ■年１回決算型：運用管理費用（信託報酬）は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の６カ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。
その他の費用・手数料	• 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用などは、実費を投資信託財産中から支払うものとします。これらの費用は運用状況などによって変動するため、事前に具体的な料率、金額、計算方法および支払時期を記載できません。 • 監査費用、目論見書・運用報告書の印刷費用などは、投資信託財産の純資産総額に対して**年率0.11%（税抜0.10%）を上限**として、信託財産中から以下の支払時期に支払うものとします。 ■毎月決算型：毎計算期末または信託終了時。 ■年１回決算型：毎計算期間の最初の６カ月終了日および毎計算期末または信託終了時。

＊上記、ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

Invesco

インベスコ 世界厳選株式オープン 【愛称：世界のベスト】

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
＜為替ヘッジあり＞（年１回決算型）／＜為替ヘッジなし＞（年１回決算型）

販売会社（投資信託説明書（目論見書）のご請求・お申し込み先）

■ 受益権の募集・販売の取り扱い、投資信託説明書（目論見書）の交付、運用報告書の交付代行、分配金・換金代金・償還金の支払いおよび分配金の再投資※に関する事務などを行います。
※ 分配金を受け取るコースのみを取り扱う販売会社は当該業務を行いません。

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	毎月決算型取扱い販売会社	年1回決算型取扱い販売会社
アイザワ證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○			○	○
ＳＭＢＣ日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	○	○
株式会社ＳＢＩ証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	○	○
オーストラリア・アンド・ニュージーランド・バンキング・グループ・リミテッド（銀行）※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第622号	○				○	
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○	○	○
株式会社三十三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○				○	○
株式会社十六銀行※2	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○		○	
株式会社新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○		○	
スルガ銀行株式会社※2	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○				○	
損保ジャパンＤＣ証券株式会社（確定拠出年金のみの取り扱い）	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第106号	○				○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○	○	
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○	○	
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			○	○	
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○				○	○
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○		○	○
日本生命保険相互会社（確定拠出年金のみの取り扱い）	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第36号	○				○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○	○			○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○		○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○		○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	○	
株式会社みずほ銀行※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○		○	○	○	
三津井証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長（金商）第14号	○				○	○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○	○	○
株式会社三菱ＵＦＪ銀行※2（確定拠出年金のみの取り扱い）	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○	○	
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	○		○		○	
三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	○	○

※1 新規の募集・販売の取り扱いを停止しています。※2 インベスコ 世界厳選株式オープン＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）のみ取り扱いを行います。

設定・運用は
商号等 ：インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第306号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの照会先：お問い合わせダイヤル 03-6447-3100
受付：営業日の午前9時から午後5時まで
ホームページ http://www.invesco.co.jp/

【当資料のお取り扱いにおけるご注意】
当資料はインベスコ・アセット・マネジメント株式会社が作成した販売用資料です。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また、過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。当資料で詳述した分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と差異が生じる場合があります。当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見などは特に記載がない限り当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。ファンドの購入のお申し込みの場合には、投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関は投資者保護基金には加入しておりません。ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。ファンドは、株式など値動きのある有価証券など（外貨建資産には、為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これらの運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。